

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【河合小学校】

⑥ 次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	本年度、おおむね確立することができた書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサブリの活用や、学習スペースの利活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習にも継続して取り組ませていく。家庭との連携も固りながら、児童が主体的にどのツールで学ぶかを選べるようにしていく。教職員がさらに、積極的に1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業実践できるようにする。また、授業実践の成果と課題を共有するための環境整備を行う。
思考・判断・表現	本年度、「評価規準を示すこと」については定着してきたが、継続して実施することに課題がみられることから、学校全体で「学習のルール」の中に「学び方」を盛り込んでいく。また、児童主体で振り返り手立てについても共有を図っている。さらに、必要感のある課題設定、主体的に解決する場面の設定について、次年度の学校課題研究で授業づくりの柱の一つとして取り組んでいく。中間期見直しで掲げた週1回の研修時間の確保により、学校は「改善し続ける組織」としての体制を整え、児童理解・授業改善・ICT活用の中で大きな成果が見られた。次年度は、研修の質の深まり、データの活用、ICTを使った個別最適化、カリキュラムの体系的見直しについてなど、組織としての学びをさらに高めるフェーズへ移行していく。

今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 算数「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。反復や振り返りの時間が十分に確保できていない。	⇒ 「書き込み式ドリル」や「ドリルパーク」や「スタディサブリ」を活用し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組み時間を設定する【週2回の朝学習で実施】。その際、児童が自ら学習履歴を確認し、それを生かして、個別に学習計画を立てる時間を設定する【月に1・2度の自習学習タイムで実施】。 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を教職員全体で共有する【学期に1度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。 児童が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。	⇒ 評価規準を児童に示すことで、児童主体の振り返りを充実させる【毎時間】。 ICTを効果的に活用し、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。また、魅力ある導入や必要感のある課題設定を行い、解決の見通しをもたせた上で、児童が自力解決する場面の設定を行う【毎時間】。

⑤ 評価(※) 調査結果 学力向上策の実施状況	
知識・技能	B 書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサブリの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習にも継続して取り組ませることができた。どのツールで学ぶかを児童が主体的に選んで学ぶことができるようにしていきたい。年間を通して、積極的に1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行うことができた。中間期見直しで掲げた週2回の朝学習と、月1・2回の自習学習タイムを組み合わせることで、児童自身が学習を管理できる力の育成や、家庭学習の質と継続性に繋げることができた。また、教職員も学習履歴を活用しやすくなり、学校全体で個別最適化学びを進める体制を整えることができた。
思考・判断・表現	B 評価規準を児童に示すことはおおむねできているが、学校全体で継続して実施できるようにしていきたい。また、どの学年でもICTを効果的に活用した授業を行うことができている。R7さいたま市学習状況調査(教科)は好きですか。に対する肯定的な回答が高く、今後も必要感のある課題の設定や、主体的に解決する場面の設定する取組を充実させていくことが必要である。中間期見直しで掲げた週1回の研修時間は、「日常実践の改善サイクルの確立」「児童理解の深まりと支援の質の向上」「ICT活用・評価・カリキュラムなど学校の基盤が強化」として、学校全体で共通ビジョンを持ち、実践改善を図ることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」や算数の「図形の角の大きさ」や理科の「電流が流れる磁力」の平均正答率において、全国平均を上回った。 国語の「読むこと」や算数の「測定・変化と関係・データの活用」や理科の「生命・地球を柱とする領域」の項目で課題がみられた。R7全国学力・学習状況調査の児童質問「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいるか」や「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる行動を行っているか」、「自分に合った教え方、教材、学習時間であったか」に対する肯定的な回答の割合がとも大きい。今後も児童主体の個別最適化学びを進めることができるよう、教職員の研修を積んでいく。
思考・判断・表現	国語の「話すこと」の算数の「グラフの項目」や理科の「電気の働き・発芽」の平均正答率において、全国平均を上回った。 国語の「読むこと」や算数の「測定・変化と関係・データの活用」や理科の「生命・地球を柱とする領域」の項目で課題がみられた。R7全国学力・学習状況調査の児童質問「自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫しているか」や「次の学習や実生活に結び付けている」、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器の活用」に対する肯定的な回答の割合は高い傾向にある。これまでの手立てを引き続き実践するとともに、ICTを活用した振り返りを充実させ、さらにその振り返りを次の学習に生かしていく。

① 結果分析(管理職・学年主任等)

② 詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、全学年を通して「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がみられた。算数では、全学年を通して全領域に課題がみられた。社会では、「地理的環境と人々の生活」「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に課題が見られた。理科の平均正答率において、市の平均を上回った。ドリルパークやスタディサブリを活用して基礎的・基本的な知識・技能を強化していくことを教職員間で共通理解した。昨年度課題がみられた教科では、R6同集団より正答率の上昇がみられた。昨年度の課題として指導を継続してきた成果であると考えられる。課題を確実に把握して指導につなげることを引き続き大切にしていく。
思考・判断・表現	全ての学年・教科において、市平均と比べると「思考・判断・表現」に大きな課題がみられる。しかし、同集団におけるR6との終年比較をすると、結果が向上した学年や教科も多くみられ、本年度行ってきた授業改善の成果であると考えられる。「何をどのように」表現するかを児童が主体的に選択することができるよう指導を行っている。 【(教科)は好きですか】の質問に対する肯定的な回答の割合は、市の平均と比べると算数・社会・理科が高い傾向であるが、国語・G・Sは低い傾向であった。「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器の活用」に対する肯定的な回答は高い傾向にある。これまでの手立てを引き続き実践するとともに、ICTを活用した振り返りを充実させ、さらにその振り返りを次の学習に生かしていく。

③ 中間期報告		中間期見直し
評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B 書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサブリの活用を通して、一人ひとりが自分の課題に合った学習にも継続して取り組ませることができている。 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を教職員全体で共有することができている。	⇒ 個別に学習計画(家庭学習)を立てる時間(回数)が不足していた為、学習履歴等の情報を児童や教職員が十分に把握し、利活用しているような体制を整える。 【週2回の朝学習で実施】 【月に1・2度の自習学習タイムで実施】
思考・判断・表現	B 評価規準を児童に示すことは概ねできているが、学校全体での活用という点では、まだ課題がある。 ICTを効果的に活用した授業を実施することができている。 魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面の設定する取組は学校として、まだ不十分である。今後の授業づくりの柱として研修に取り組みしていく。	⇒ 学校全体で取り組めるよう研修等で情報交換・共有を行ったり、学校としての方向性を検討していくなど実践を進めていく。 【週1回の研修時間】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)